

会議記録

令和4年7月27日

- 会議名 丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会
第7回竹田・前山地域部会
- 日時 令和4年7月26日（火）19:30～21:00
- 場所 ライフピアいちじま
- 出席者 委員：青木修、余田義信、笹倉博、山邊敦、荻野幸広、藤田泰生、溝部康
祐、余田亜美、足立和宏、吉見典彦、余田淳子
[事務局]
教育総務課：足立次長、船越係長、小田、畑中
学校教育課：池内次長
[担当課]
ふるさと定住促進課：藤浦課長、足立係長

●内 容

1 統合後の通学支援について

前回の協議で要望があった専用スクールバスと路線バスの比較について事務局から資料で説明し、統合後の通学支援の方法について委員の意見を伺った。

【意見等】

- ・前山地域で地区懇談会を開催した際に意見徴収を行い出た意見としては、「路線バスは社会性が身に着くが安全面が心配」「今のご時世、どんな人が乗ってくるのかわからない。」
「実際にバスを走らせ、地域の方にも乗ってもらってシミュレーションをしてほしい。」
といった意見があった。
- ・路線バス車両を実際に走らせてのシミュレーションは可能か。
→実際に走行する車両を借り上げて実施することは可能である。（ふるさと定住促進課）
- ・前山地区自治振興会の会議で通学のために路線バスを運行することについて話し合ったが、誰が乗ってくるかわからないので、安全性を確保するためには専用スクールバスのほうがいいという意見が多かった。
- ・鴨庄地域のスクールバスは塚原地域まで運行するのに、前山地域ではなぜ徳尾や鴨阪まで入れないのか。実際に運行するなどしてもう一回検討してほしい。
→専用スクールバスの場合でも鴨庄地域と同様にスクールバスを試走し乗り入れが可能か検討することも可能である。（事務局）
- ・こども園で意見を徴収した中で、「自分の子どもは竹田地域だが、近所に子どもが少なく、長距離を通学している。今後一人で通学する可能性もあるため不安に感じているのでスクールバスやタクシー通学を検討してほしい。」「路線バスの場合は安下がバス停になっているので、竹田地域でも安下の児童はバスに乗れるようにしてほしい。」「竹田地区・前山地区の括りにとられることなく、子どもたちが安全に登校できる方法を考えてほしい。」「議論の余地があるのであれば、防犯面や熱中症対策で竹田地域の児童にもバスを出して欲しい。」「前山地域はバスで竹田地域は徒歩なのは公平性にも欠けるし、児童の体力にも差が出てしまう。」という意見があった。
- ・前山地域でも基準の4km未満の地域もあるので考え方の整理はしてほしい。
- ・竹田小学校の児童数は昔は多かったが、現在は児童数が少ない中で通学している児童もいるので、今までどおりと同じだからバスに乗れないで終わらせるのではなく、後でしっかり考えてほしい。

- ・比較表で見ると明らかに専用スクールバスが選ばれるように思う。路線バスを運行することに社会的な意義があると感じていたが、自治会など地域の方も専用スクールバスがよいという考え方であれば、専用スクールバスでよいのではないか。
- ・路線バスを実際に試走することはできるが、どうするか。(事務局)
- 地域側が路線バスを特に望んでいないなら、無理に実施する必要はないと思う。
- 自治会で話合った中では、便数が少ないこと、市島の中心部に行けないことからあまり利便性がないという意見があった。
- 今回は学校の統合に合わせて通学で使える路線バスの運行を提案しているが、その後も地域の中でその路線バスをどう活用できるかの検討をすることが大切で、一定の需要が見込めるのであれば次の展開もあり得ると考えていただき、市としても検討をしていきたいと考えている。(ふるさと定住促進課)
- 市がまちの発展なども考えて路線バスを運行したいという気持ちはわかるが、前山地域の住民は統合に関して苦渋の決断でここまで来ている。その中で前山地域の方の不安を置いておいて路線バスを運行することはできないと思う。
- ・竹田小学校 PTA で話し合いをしたが、「前山地域の保護者の立場で考えると専用スクールバスのほうがいい。」「(路線バスの場合)不審者が乗車してきた場合どう対処するのが心配。」「便数が今後増える可能性があるとしてもまだ不透明で地域活性化につながらないのではないか。」という意見があった。
- ・学校側から見ても専用スクールバスのほうがいいように思うが、専用スクールバスを選択した場合、路線バスの運行はなくなるのか。
- 次の統合の段階で児童の大量輸送の需要が出てきた場合などは運行の可能性もあるが、市島地域では JR の運行等もあり、交通空白地帯ではないので、現段階では可能性は限りなく低いと考えている。(ふるさと定住促進課)

【決定事項】

竹田小学校と前山小学校の統合における通学支援は専用スクールバスを運行することで今後協議を進める。

2 校名について

山南地域の統合中学校の校名公募の例を参考資料として事務局より説明し、統合後の校名の決め方について委員の意見を伺った。

【意見等】

- ・竹田小学校 PTA で校名について話し合いをした中では、「前山小学校の校名を残したい気持ちはわかるが、実際に通学する児童は今後新しく入学する児童なので問題は生じないのではないか。」「名前を変えると費用や手間もかかるので、その予算を施設改修に使用してほしい。」という意見があった。
- ・前山小学校の地区懇談会では「竹田と前山のどちらかの漢字を使用してほしい。」「全く違う校名にしてほしい。」「校名よりもっと大事なことがある。」「校名ではなく他のところで児童にお金を使ってほしい。」という意見があった。具体的な候補としては、「竹前小学校」「あいいく小学校」「市島小学校」「竹田小学校」「竹山小学校」「竹田・前山小学校」が出た。数としては「竹山小学校」を希望する人が多かった。
- ・お互いの校名を使用して「竹山小学校」がいいと感じている。
- 年配の方はそのような意見が多いと思うが改めて地域の幅広い意見を集め、皆に納得してもらうために公募するのがいいのではないか
- ・校名を変えた場合の費用はどの程度生じるのか。費用面も考慮する必要があるのではないか。
- 高いものだと校旗や体育館の緞帳などがある。校歌の作曲料や公募で選ばれた方の謝礼

金なども発生する。(事務局)

- ・山南の統合中学校の校名募集時と同じように校名に込めた思いなどを記入いただいて、それを大事に考えていくことが大切だと思う。
- ・実際に小学校に通学している児童を対象に公募をするのがいいと思う。
- ・公募した場合も、一番公募数が多かった校名が採用される可能性が非常に高いため、それを防ぐために、公募数を伏せて委員で投票するなどの形をとってほしい。

【決定事項】

統合後の校名は公募を行い決定する。選考の方法についても次回協議する。

- ・次回以降日程 ○令和4年月8月30日(火)19時30分～
ライフピアいちじま